

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400180		
法人名	株式会社 タクト		
事業所名	グループホーム観音堂		
所在地	秋田県大館市字観音堂391		
自己評価作成日	平成29年9月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成29年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・明るい雰囲気の中で、入居者様お一人おひとりが楽しく生活できるようなケアの実施。 ・ゆっくりと入浴をしていただけるよう、1人ずつお湯を張替えている。 ・食事は、季節のものを取り入れたり、行事の際はお重を使い普段とは違った演出を楽しんでいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者は玄関前の掃除や調理の手伝い等を進んで行き、機能の低下防止、生きがいに役に立ち、ゆったりと落ち着いた表情で生活されています。日課を特に決めず、職員は声をかけ合って利用者の状態に合わせて自然体で接して良好な関係が築かれています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	福祉事業部の理念を基に、自施設の理念を作り、理念に沿ったケアの提供ができるよう心がけております。また、新しい職員が入った場合も、自施設内での研修を行い、共有するようにしております。	職員の日々の自然なケアが理念に繋がったものとなっており、利用者の表情からもうかがうことができます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年も夏祭りを企画、開催し多くの地域の方々に来ていただきました。また、その際には、テントをお借りしたり、回覧板でチラシを回覧していただいたりと協力してもらいました。	隣接する法人事業所と合同で行う夏祭りは周辺に広く案内して開催され、地域に根ざす事業所を目指すと共に、利用者が地域との繋がりが保てるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	ご家族様や地域の方々に参加して下さるような行事を企画、開催し、日常の入居者様の様子や関わり方を見ていただく機会を設けております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催し、毎回多くの委員の方々から出席いただいております。施設の状況報告をしながら、委員の方々から助言やアドバイスを頂いております。	多くの地域の方が出席されていますが、会議を通して地域との協働を図るための積極的な働きかけがされておらず、会議が運営に十分に活かされておられません。	運営に具体的に活かしていくために、会議の効果的な進行の仕方に工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、施設の状況や待機者様の報告をさせて頂いております。市担当者からは、他施設の状況や待機者の状況を教えてもらったり、さまざまな情報を頂いております。	管理者や計画作成担当が制度上の不明点を相談する等して協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しておりますが、日中は施錠せず、玄関チャイムで対応しております。職員採用時には、行動指針を基に身体拘束についての研修を行っている他、日々の申し送り等でも、声掛けや行動が拘束に繋がらないか等を話し合っております。	職員は研修や日々の話し合いを通じて理解しており、現在身体拘束はありません。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュースで虐待等の報道があるたびに、職員間で虐待について話し合っております。日々の生活の中でも虐待に繋がるような言動が無いように注意を払っている他、職員がイライラしないような職場の環境作りに努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか学ぶ機会が無く、今後、研修等があった場合は積極的に参加していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する前に、施設の見学をお勧めし、案内しながら施設の雰囲気を見ていただく機会を設けております。また、契約時もお時間を頂き、ゆっくりと説明させてもらっております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りや連絡ノートを活用し、入居者様やご家族様からの要望を伝え、全職員に周知しております。また、頂いた意見や要望はできる限り添えるように検討し対応しております。	家族からは利用者の対応についての要望等が多く聞かれ、職員間で話し合って利用者、家族の思いに沿えるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送り、雑談の中で職員が少しでも話しやすい環境と関係性の構築に努めております。内容によっては、業務に反映できるよう努力しております。	利用者の状態に合った環境をつくる等、職員の意見や提案を法人本部に伝えて反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の性格や能力を考慮しながら、楽しく笑顔で働ける職場の環境作りに努めております。また、職員が向上心を持って働けるよう、資格習得に向けての補助を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に合わせた外部研修への参加、その後の内部研修を行っています。しかし、現状として、近隣での研修が少なく、参加できないことも多くあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームとは情報を共有し、意見の交換等を日常的に行っております。その情報は、職員会議等で職員に伝えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約、入居前には必ずご本人様にお会いし、現状の把握に努めております。また、入居後はアセスメントシートを参考に、ホーム入居後の生活状況を確認、ご本人様が新しい生活で不安にならないようなケア、環境作りを行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内の見学をお勧めし雰囲気を見ていただいております。また、面談はご家族様のご都合に合わせて、日時や場所を決定し、ゆっくりとお話ができるよう配慮しております。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人ひとりに合わせた距離感で接し、入居者様の立場に立ったケアの実施を心がけております。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に、いつでも気軽に来て頂けるような施設の雰囲気作りや、ご家族様と入居者様が一緒に楽しめるような行事の企画を行っております。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に通っていた美容院や病院の継続を、馴染みある場所や方々との関係の継続に努めております。	これまで行われてきたことがホームに居ても継続できるよう支援されており、家族の協力も得られています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性や、認知症状、介護度等を考慮したうえで、席の配置換えを行ったり、職員が間に入り会話をすることで、入居者様同士が少しでも良好な関係を築けるよう配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様やご家族さんの負担にならない程度に、退所後の面会や行事へのお誘いをし、関係性の継続に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様からの聞き取りを行い、全職員で話し合いを行っております。また、困難な方に関しては、日々の暮らしの中での表情から気持ちを汲み取り、希望や意向に沿えるよう努力しております。	日々の会話や日常の行動から利用者を理解し、経過記録や申し送りで情報を共有してホームでの生活に活かせるよう検討されています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時の担当介護支援専門員やサービス利用施設からの情報を基に、在宅中の暮らし方、生きがいを見つけ、ホームでの生活でもできる限り継続できるよう努力しております。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が入居者様それぞれの一日を把握できるよう、介護記録残し閲覧するようにしております。また、日々の申し送りや職員会議等でも現状を報告し合い、ケアの方向性を検討し実施しております。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意見や希望を基に、職員で話し合いケアプランの作成を行っております。ケアプランを各ユニットに置き、職員がいつでも目を通せるようにしましたが、介護記録に反映できるシステムにはまだできていない状況です。	モニタリングに効果的に活かせる記録となるよう努力されています。モニタリング、カンファレンスで職員が意見を出し合って現状に即した介護計画を作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を基に申し送りやケア会議を行い、情報の共有とケアの実践に活かしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様のかかりつけ医や、町内会長や近隣の方々の協力を都度頂いております。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、当施設の協力医や協力薬局の説明をさせて頂いておりますが、できる限り在宅時から通われている病院の継続をお勧めしております。また、協力医には月2回の回診に来てもらい、入居者様の体調管理をお願いしております。	医科歯科共に入居前からのかかりつけ医で受診されています。家族が受診対応される時は、状態がわかるように家族を通じて医師に伝えられています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は採用しておりませんので、入居者様の体調に変化があった場合は、管理者やケアマネに速やかに連絡を取ることを周知しております。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、当施設内での生活状況や受診に至った経緯などを伝えております。また、入院中もこまめに面会し、入居者様の状態を確認しつつ、早期退院に向けて、病院関係者との情報交換を行っております。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診先によって変わりますが、かかりつけ医が往診等で協力してくださるとの事で、現在数名のご家族様には、その旨をお伝えしております。重度化してきた入居者様のご家族様には、状況を伝えながら、特養等の申込みをお勧めしている場合もあります。	緊急時の対応が可能な主治医を持つ利用者もおりますが、それぞれの主治医によって対応が異なるため、状況の変化に応じて支援できるよう取り組まれています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	先日、数名の職員が普通救命講習を受講し、その後の職員会議で報告を行いました。今後も、数名ずつではありますが受講して参りたいと思っております。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通じ、避難訓練実施の際の訓練の参加をお願いしましたが、実現できていないのが現状です。市から発令する緊急メールの導入と食料品の備蓄は改善できましたが、その他は昨年同様であり、課題だと思っております。	訓練は職員と入居者とで行っています。隣接する同法人の事業所が2階建てとなっていることから、水害時の避難場所としています。食料、飲料水の備蓄もされています。	スロープを安全に使用できる工夫、車椅子が安全に通行できる通路の整備及び、協力者の役割を具体的に決めた訓練の実施等、特に夜間の職員の少ない時間帯の非常時に備えた対策を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格や生活歴を把握し、配慮しつつもその方に合わせた距離感と馴染みのある方言を用いた言葉掛けやコミュニケーションを図っております。	職員は利用者を理解した対応をされています。笑顔で接することを心がけ、トイレ誘導の際の声かけや入浴時の同性介助にも配慮されています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望や要望の収集に繋がるよう、日々のコミュニケーションを大事にしております。自己決定の難しい方に関しては、表情の変化や前後の行動から、ご本人様の気持ちを汲み取れるよう努力しております。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や水分の時間以外は一日の流れを業務化せず、その日の雰囲気を入居者様がゆっくりと過ごせるように努めております。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容院への継続や、整髪、洋服選びなどを継続し、入居者様がおしゃれや身だしなみに無関心にならないような言葉掛けを行っております。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が負担にならない範囲内で準備や後片付けを一緒に行っております。入居者様と職員が同じテーブルで食事をし、見守りをしつつ、会話をしながら楽しい食卓になるよう配慮しております。	食事時間に合わせて利用者と職員と一緒に準備をしています。時間のかかる利用者を急かすこともなく、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいます。畑で野菜を作っており、食事の際の話題づくりに一役を担っています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量や形態での提供を行っております。水分もお好みのものを飲んでいただけるよう配慮しております。また摂取量は記録し、全職員が確認できるようにしております。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを行い、清潔保持に努めております。義歯の方は夜間の漬け置き洗浄を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツや尿取りパットを使用されている方もいらっしゃいますが、基本的にはトイレにお連れしトイレでの排泄を継続しております。自立されている方でも、プライバシーを配慮しつつ、お声掛けや見守りで排泄の確認をさせてもらっています。	個々のパターンに応じて適切に対応し、トイレでの排泄を支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤や整腸剤を服用している方もおりますが、野菜や食物繊維が多めに摂れるような献立を工夫しております。また、水分補給時間以外でも、こまめに水分を摂って頂いたり、施設内を散歩してもらい、自力排便に繋がるよう努めております。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	凡その入浴予定日は決めておりますが、入居者の気分がのらない時は無理強いせず、時間帯や日にちを変更し対応しております。また、お一人ずつ浴槽のお湯を入れ替え、ゆっくりと入浴を楽しんでいただいております。	週2回は入浴できるよう支援されています。車椅子の利用者も浴槽に浸かって入浴されており、個々の状況や希望に沿って対応されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、ソファでうたた寝される方、お部屋で休まれる方、それぞれ自由に休んでいただいております。夜間は、できる限り皆様の希望に添った就寝時間と起床時間に対応しております。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容が変更になった場合は、申し送りや連絡帳で、変更内容や説明書を伝え周知するようにしております。また、服薬確認表に記入しながら職員間で声を掛け合い、薬の飲み忘れや誤薬防止に努めております。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様それぞれの得意分野や好きなことを見つけ、気分転換の方法に役立てております。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族さまと喫茶店に行ったり、買い物やドライブに出かけ楽しんでいる方もいらっしゃいます。外出を好まない方もおり、その方には無理強いせずホーム前での食事会等を企画し、外の空気を吸っていただいております。	家族と外出されたり、季節のお花見ドライブ等を企画し、戸外に出て楽しめる機会をつくっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のお小遣いは、ご家族様同意の下、事務所の金庫に保管しております。ご本人様から買い物の依頼があった場合は、職員が対応し購入しております。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や絵葉書が届いた際は、ご本人様にお渡ししております。また、電話の依頼があった場合は、その都度対応しております。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気、消臭、湿度対策を行っております。ホールや玄関には装飾を行い季節感を演出しております。季節ごとに絵葉書を持ってきてくださる方がおり、ホールに飾っておりますが、交換時は、入居者様が大変喜んでくださっております。	不快な臭いはなく、邪魔になるものも置かれていないため安全に通行でき、ゆったりとした生活空間となっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は、ほぼ皆様がソファで過ごされていることが多く、入居者様同士、職員と会話を楽しんだり、新聞を読まれたりと個々の時間を過ごされております。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時点で、ご家族様にはご自宅で使用されていた馴染みの物の持込をお願いしております。前屈姿勢の入居者様の場合は、パットや洗面道具を床に置き、ご本人が取りやすいように配慮しております。	馴染みの家具が使いやすく設置されており、遺影を置いている方もおります。収納スペースが設けられ、生活の場としてきれいに使用できるよう配慮されています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様に合わせた設備の活用を心がけ、安全を配慮しつつ「できることの継続」を支援しております。		